

平成30年度 事業報告

公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日

<概況>

本協会は1980年7月26日に創立され、昨年38周年を迎えた。創立以来、家族の絆を強めて家庭の再生を図る生き方を社会に提唱し続け、幅広い生涯学習に取り組んできた。家庭崩壊の危機が一段と深刻化している今日、本協会の理念と永年にわたる活動実績が国内外から、家庭教育を中心とする生涯学習団体として高く評価されている。

組織面では、新たに制定された公益法人法に基づいて、平成26年3月20日、内閣総理大臣から「公益社団法人」として認定され、平成26年4月1日に移行・設立した。

来年、創立40周年を迎えるにあたり、3年前「全国50スクール体制」実現を目標として掲げた。また40周年を記念する事業として、①記念大会の開催（2020年11月23日、東京国際フォーラム）、②スコーレ会館の整備、③40周年記念誌の発行の検討を行った。

また、これらと併せて、組織の再編成や新しい地域の開拓、研修・学習体制の見直し、地区事務局体制の強化などを実施すべく積極的に推進している。

事業運営面では、公益目的事業推進のために、首都圏南、首都圏北、北関東、東海、近畿、中国の主要6地区において、組織・普及・研修・事務局体制のさらなる充実を図り、未来に向けたビジョン作りを本格的に推進してきた。

中でも、事業推進の原動力となる「全国代表者会議」は、本部と6地区の代表者によって具体的事項を協議・決定し、その内容が東・西の「全国指導者会議」に報告され、地区の運営に活かされている。

東・西の「主査研修」「主査候補研修」で育成された若手リーダーを中心に積極的な普及活動が展開され、新しい地域の開拓も着実に進んでいる。

過去38年間に及ぶ実績を基に、将来に向けての組織体制の確立と学習・研修のプログラム開発やシステム化を図り、公益法人としての活動をさらに推し進めている。

<事業活動>

I. 家庭教育の振興

- (1) 各地の教育委員会や幼稚園、小学校PTA等から講演会の講師の要請を受け、14回派遣し、延べ681人が受講した。
- (2) 各地の教育委員会より229回の後援や学校等の協力を得て、若いお母さんを対象に「家庭教育講座」を開催して好評を得た。また、「子育てセミナー」ではアットホームな雰囲気、受講者の子育ての悩みやトラブルの解決に向けて、適切なアドバイスをした。

これらの講座開催は 1,362 回に及び、延べ 22,567 人が受講した。

- (3) 協会認定の 22 人のカウンセラーによるカウンセリングは、各地区で定期的実施され、多くの会員の悩みや問題の解決に役立っている。
- (4) 成人男性対象の組織『スコア・マスターズ』は、首都圏と東海地区において、「生きがい講座」「人生学講座」を開催し、好評を得た。
さらに、坐禅・ボイストレーニングを主体とする「地区学習会」を全国各地で開催し、着実に自主運営を進めている。
- (5) 熟年女性対象の組織『スコア・グレイセス』は、「グレイセス講座」や「生き生きトレーニング」を各地区で開催して好評を得ると共に、指導者の養成を図っている。

II. 研修の実施

- (1) 「早朝研修」は全国 46 か所の会場で毎朝開催し、延べ 186,874 人が出席した。
- (2) 初級・中級・上級者向けのボイストレーニングが各地区で活発に行われ、延べ 10,070 人が受講した。同トレーニング修了者が受講する「ことだまコース」は、朗読法や話し方を向上させ、指導者養成の研修として定着している。
- (3) お母さんがゲーム感覚で子供と共感体験できる「ふれあいトレーニング」をはじめ、寝たきりや転倒防止を図る「生き生きトレーニング」を開催し、合せて、指導者を養成している。
- (4) 「家庭教育講座」の講師として、現在 30 人の講師が全国の家庭教育講座を担当しており、これに続く講師の養成を実施している。
- (5) トレーナー審査会が開催され、「心身開発トレーナー」3 級に 7 人が、「生き生きトレーナー」に 4 人が合格した。また、「ふれあいトレーナー」「生き生きトレーナー」と合せて、全国で 166 人が各地区で活躍している。
- (6) 「リーダー研修」「実践者研修」「コメンテーター研修」等に、合せて 4,394 人が受講した。
- (7) 実践者研修では新たに「北部実践者研修」を年 3 回開催して、宮城・栃木・茨城・群馬県から延べ 77 人が受講し、若手リーダーの育成を図った。
- (8) 会員向けの『自己発見の旅』学習は 50 人が受講し、延べ 2,542 人となった。

III. 研究プロジェクトの実施

- (1) 『子育て応援キット』から学び始めて、『スタート』学習、『ステップ・アップ』学習、さらには『自己発見の旅』学習を受講して、レベルアップを図る学習プログラムのシステム化に取り組み、全国展開が平成 27 年 4 月からスタートしている。
『スタート』学習では、若いお母さんが学習しやすいように改訂した教材を一昨年 9 月

から使用して、好評を博している。また、リーダー向けに「参考メッセージ集」を発行して、活用されている。

- (2) 一部賛助会員からの要請により、社員教育の一環として講師・トレーナーを派遣し、ボイストレーニング・ふれあいトレーニングを中心に 11 回実施し、延べ 103 人が受講して好評を得た。

IV. ボランティア活動の推進、及び他の団体との連携

- (1) 収集ボランティア活動は、創立以来のベルマーク収集の全国累計が 2,200 万点を超えている。親代わりで支援している社会福祉法人「恵の園」が、今年度の集票点数 324,122 点で全国 10 位、群馬県 1 位の成績を収めた。

学校法人「アジア学院」へ未使用はがき 5,300 枚をはじめ、「聖明園」等への援助を行った。

- (2) 第 40 回ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」に、全国 51 か所で 839 人（子供 328 人）が街頭に立って市民に募金を呼びかけ、1,698,731 円を日本ユニセフ協会に収めた。
- (3) 日本キリスト教海外医療協力会に使用済み切手を寄贈し、国際協力も堅実に行われている。
- (4) 日本学術会議会員（学術研究団体）の「日本家庭教育学会」の運営に協力し、第 33 回記念大会で 2 人が研究成果を発表した。また、同学会認定の「家庭教育師」に 7 人が認定された。
- (5) その他の団体との連携による社会的展開も大きく推進された。

V. 普及事業

- (1) 月刊『すこ〜れ』（通巻 457 号）は、生涯学習誌として、内外の好評を得ている。
- (2) 一般向けとして気軽に読むことが出来、また講座案内用のチラシとの相乗効果も期待できる普及用の季刊冊子「スコレフレンズ」を昨年 7 月発刊した。
- (3) 協会公式ホームページは随時データを更新して、魅力的な最新情報を提供している。特に、各地の家庭教育講座の開催情報にアクセスが集中している。入力データを基に講座のチラシが作成できる「スターター・キット」が、広く活用されている。

さらに、会員専用ページに、各地区の活動情報を発信する「コミュニティ広場」のコーナーを開設して、閲覧回数が増えている。

- (4) 相模原市の地元紙「相模経済新聞」に、子育て中の父親向け企画として「おとうさん、出番ですよ！」を毎月、連載した。
- (5) 女性講師のブックレット「お母さんへのメッセージ」（5 巻）は、子育て中のお母さん方に助言の書として広く活用されている。
- (6) 「ボランティア通信」（通巻 48 号）を年 2 回 12,000 部発行し、全国の収集ボランティア

ア協力者に広く読まれている。

<会員動向>

会員等区分の名称	平成 30 年 3 月 31 日	平成 31 年 3 月 31 日	前年比
一般会員	20,352 人	19,891 人	98%
特別会員	7,582 人	7,886 人	104%
合 計	27,934 人	27,777 人	99%
賛助会員	9 社	9 社	100%

以 上